

## 第3部

## 資料編

第6章 しらおいの現況

第7章 参考資料

# 第6章 しらおいの現況

## しらおいの現況について

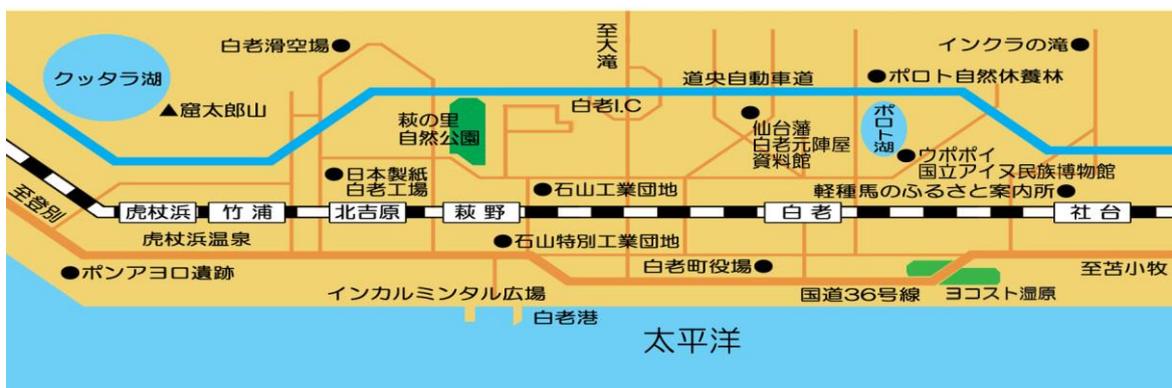
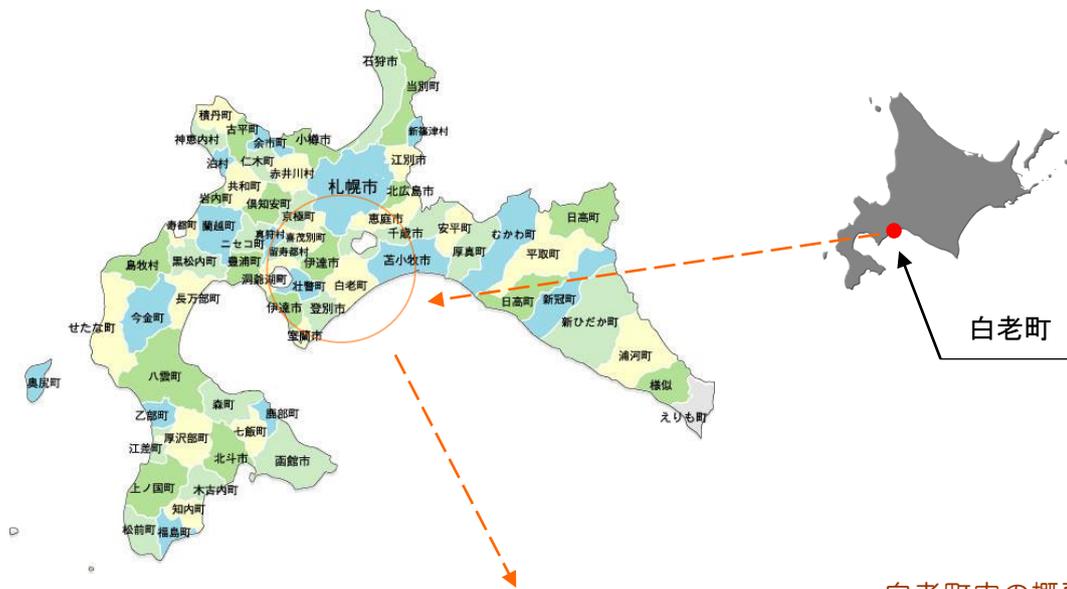
### 1 白老町の概況

#### (1) 位置

白老町は、北海道の南西部、胆振支庁管内のほぼ中央に位置し、総面積 425.64 km<sup>2</sup>、東西 28.0 km、南北 26.4 km の行政区域を有しています。東は苫小牧市、西は登別市、南は太平洋をのぞみ、北部は千歳市、大滝村（H18 伊達市と合併）、壮瞥町に接しています。

主要交通幹線は、海岸線沿い国道 36 号に平行して道央自動車道が通り、それと交差するように南北方向には主要道道白老大滝線が通っています。

また、鉄道は、JR 北海道室蘭本線（駅が 6 箇所）が東西に町を貫いているほか、地方港湾白老港が整備されているなど交通アクセスに恵まれています。



(2) 地 勢

町の南東から南西にかけて太平洋沿いに広がる平野で、東端から別々川・社台川・白老川・ブウベツ川・ウヨロ川・敷生川・メップ川・アヨロ川など数多くの水量豊かな中小河川が流れ、その流域の平野部には人家が集まり市街地を形成しています。

また、北東から北西にかけては、樽前山 (1,041m)・白老岳 (968m)・ホロホロ山 (1,322m)・オロフレ山 (1,231m) などが連なり、山岳地帯の大部分は国有林です。これらのほとんどが支笏洞爺国立公園に属し、クッタラ湖・ポロト湖・虎杖浜温泉郷・ポロトコタンなど、自然環境と歴史的な観光資源に恵まれた町です。

白老町内の主な代表河川など

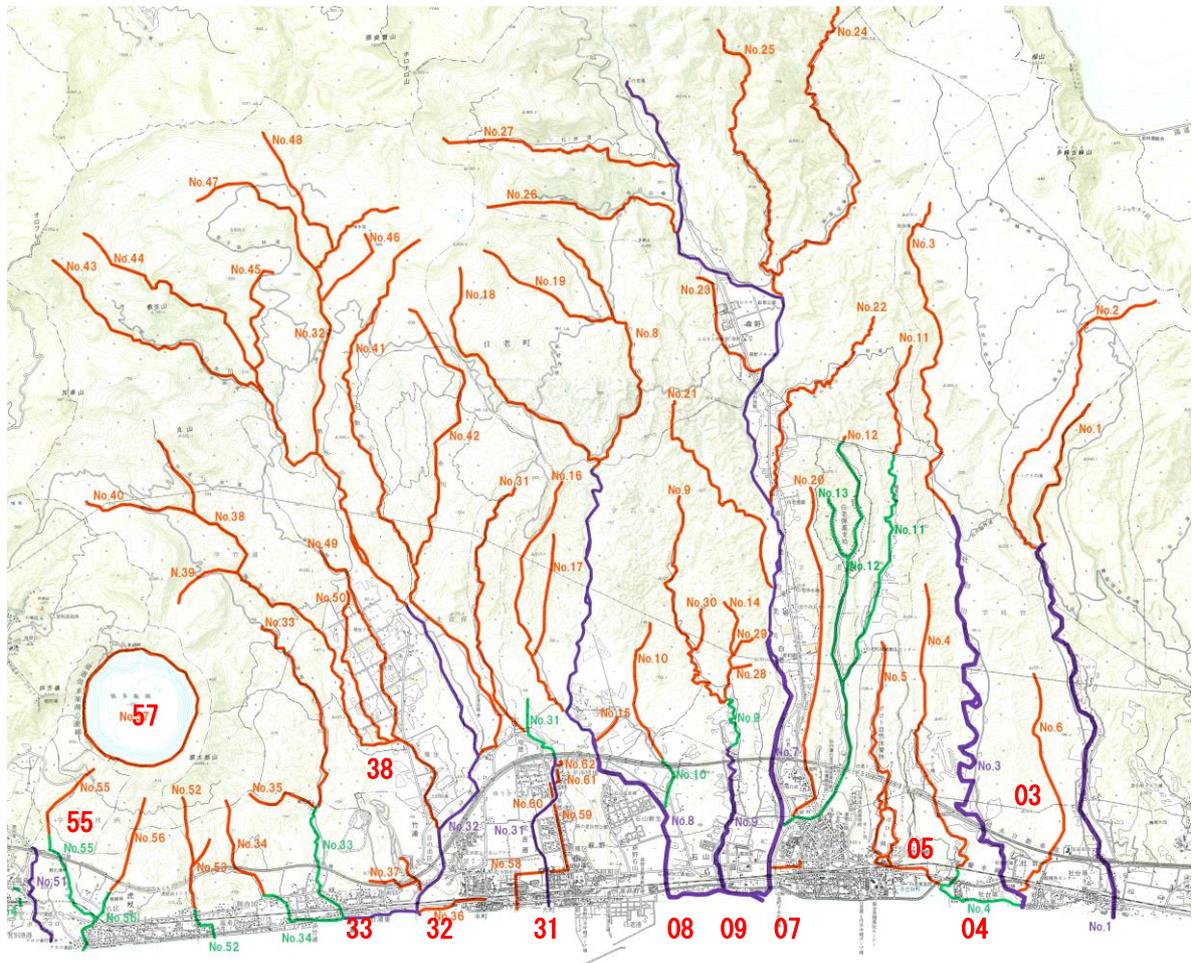
(白老町で水質測定を実施している主要河川等を下記に記載)

普通河川 —

準用河川 —

2級河川 —

03 社台川	04 ヨコスト川	07 白老川	09 ブウベツ川	08 ウヨロ川
31 フシコベツ川	32 敷生川	38 飛生川	33 メップ川	55 アヨロ川
57 倶多楽湖	05 ポロト湖 (ウツナイ川)			



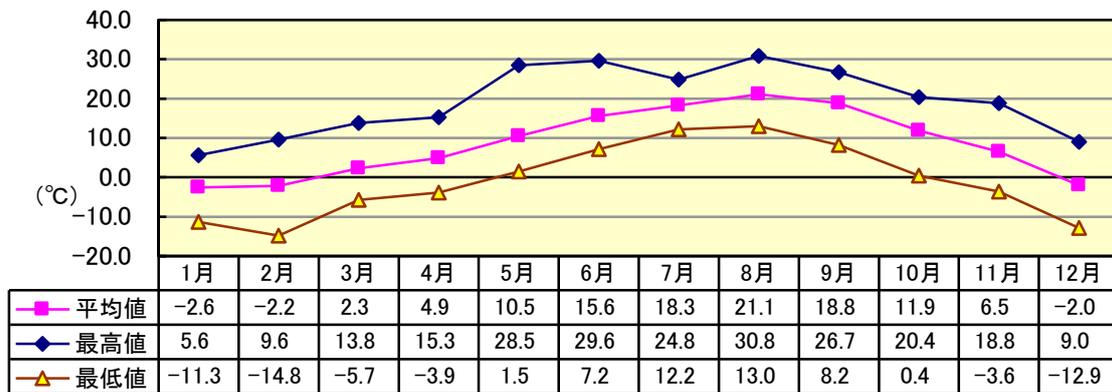
### (3) 気 候

本町の気候は、北海道の中にあつては、比較的温暖な海洋性気候に恵まれた地域です。過去10年の平均気温は年平均8.0℃程度で、最高気温は32.4℃、最低気温は-18.4℃です。

風向きは、春から夏にかけて西風と南風、秋から冬にかけては北西の風が多く、風速は年平均2.8m/sです。6月から8月にかけては、海霧が多く発生するため日照時間が少なくなり冷涼な気候となりますが、秋は長く安定した気候が続きます。

降水量は年平均1,455mmと比較的多く、中でも山間部に位置する森野地区は道内でも有数の集中豪雨地帯としても知られており、春から秋の降水量が多いのに対して、冬は降水量が極めて少ない状況となっています。

#### ・ 月別気温の推移（令和2年）



国土交通省 気象庁 統計データ

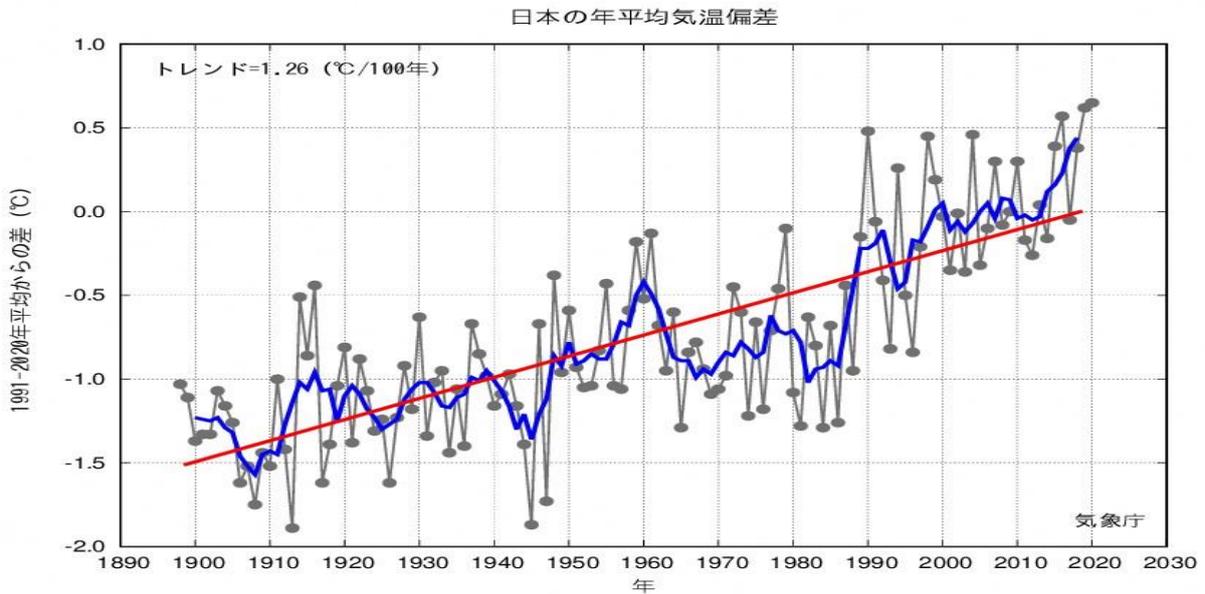
#### ・ 気象概要

年	降水量 (mm)			気温 (°C)			風向・風速 (m/s)			日照時間 (h)	最深積雪
	合計	日最大	最大 (1H)	日平均	最高	最低	平均	最大風速			
H23	1,250.5	105.0	42.0	7.4	32.1	-15.6	2.6	16.4	東南東	1,800.5	19
H24	1,416.0	124.5	25.0	7.6	29.5	-15.9	2.8	22.5	東南東	1,696.1	47
H25	1,650.5	118.5	31.5	7.8	30.1	-17.2	2.8	17.8	南東	1,624.8	18
H26	1,435.5	108.0	49.5	7.7	29.9	-14.8	2.8	21.9	東南東	2,002.2	39
H27	1,341.0	81.5	25.0	8.7	31.3	-12.5	2.8	14.7	南	1,839.6	11
H28	2,014.5	164.0	56.5	8.0	30.3	-13.7	2.8	23.6	東南東	1,818.8	17
H29	1,346.5	127.5	21.0	7.7	31.5	-15.7	2.7	17.9	東南東	1,886.5	25
H30	1,559.5	83.0	24.0	8.2	32.4	-17.9	2.8	22.5	東南東	1,718.5	27
R1	1,468.5	109.0	39.5	8.1	31.1	-18.4	2.7	15.3	南東	1,909.0	22
R2	1,072.5	69.5	14.0	8.6	30.8	-14.8	2.7	13.6	南西	1,724.0	25

国土交通省 気象庁 統計データ

・日本の年平均気温偏差の経年変化

2020年の日本の平均気温の基準値(1991年～2020年の30年平均値)からの偏差は+0.65℃で、1898年の統計開始以降最も高い値となりました。日本の年平均気温は、様々な変動を繰り返しながら上昇しており、長期的には100年あたり1.26℃の割合で上昇しています。

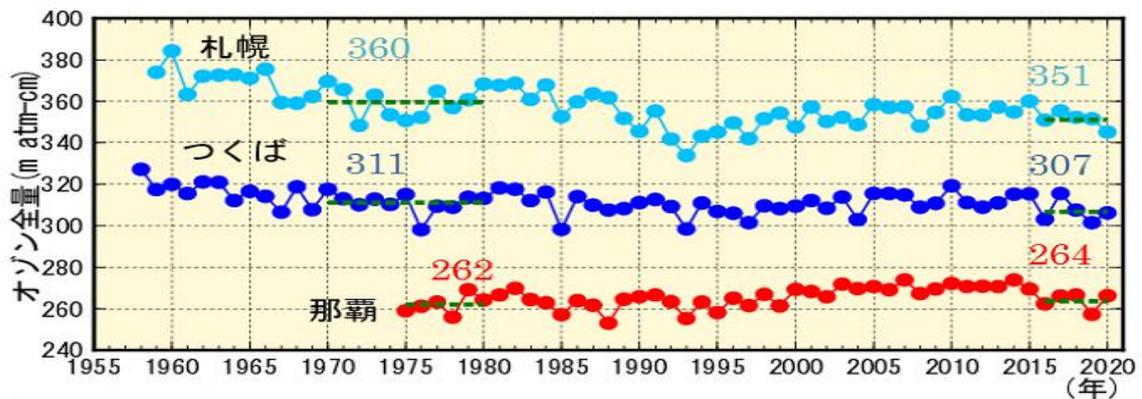


黒線は各年の平均気温の基準値からの偏差、青線は偏差の5年移動平均値、赤線は長期変化傾向を示す。

国土交通省 気象庁 統計データ

・日本上空のオゾン全量の年平均値の推移

日本上空のオゾン全量の経年変化は、札幌、つくば、那覇、南鳥島のオゾン全量の年平均値の経年変化としては、札幌とつくばのオゾン全量は、主に1980年代を中心に1990年代初めまで減少した後、緩やかな増加傾向が見られましたが、近年はオゾン全量が少ない年が続いています。



国土交通省 気象庁 統計データ

第1章 はじめに

第2章 基本的事項

第3章 基本構想

第4章 計画の推進に向けて

第5章 施策の体系と取り組み

第6章 現しらの状況

第7章 参考資料

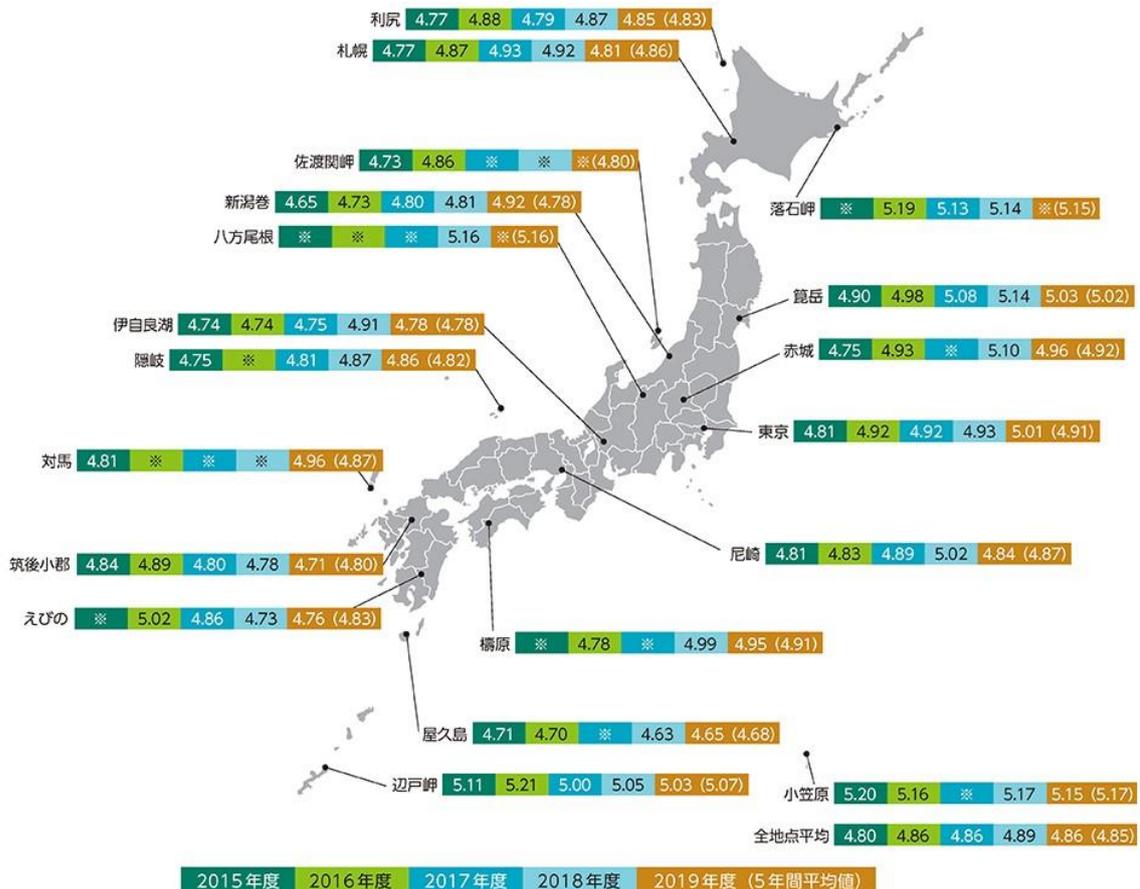
・酸性雨（降水中のpH）

酸性雨（酸性雪を含む）とは、石油などの化石燃料などを燃焼したときに発生する硫酸化物や窒素酸化物などが大気中に取り込まれて生じる酸性の雨、雪などで国境を越えて影響があり、国際的な環境問題となっています。

一般に酸性雨による影響は長い期間を経て現れると考えられているため、現在のような酸性雨が今後も降り続けば、将来、更に酸性雨による影響が生じるおそれがあります。

また、最近5か年度における降水中のpHの推移は依然として、全国的に酸性化した状態（全平均値 pH4.85）にあり、欧米等に比べて低いpHを示していますが、中国の大気汚染物質排出量の減少とともにpHの上昇の兆候が見られました。

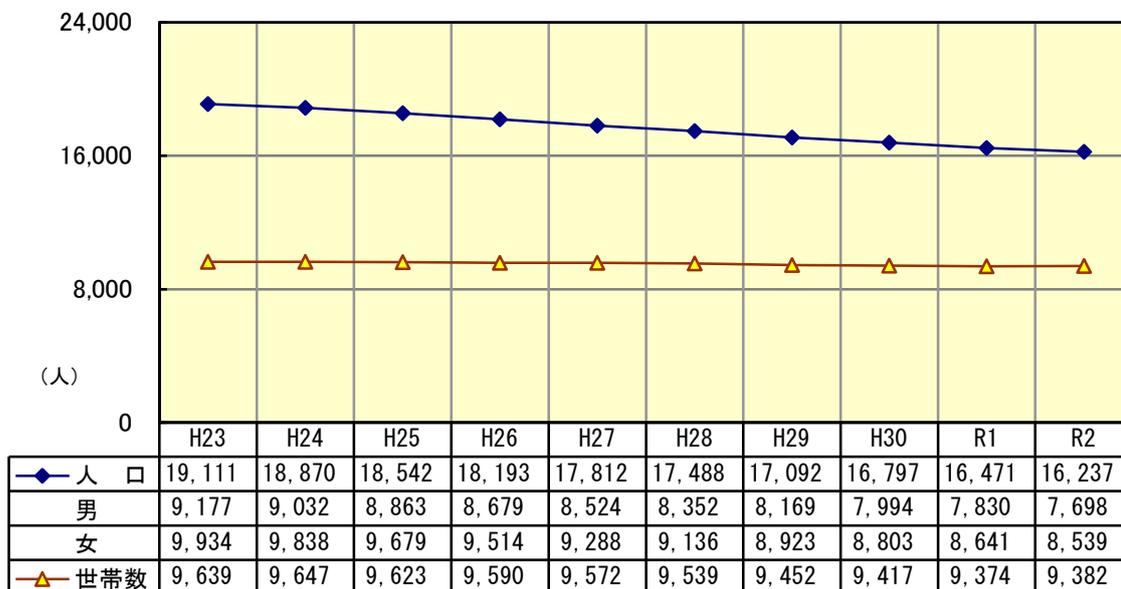
また、生態系に影響については、大気汚染等が原因と見られる森林の衰退は確認されず、モニタリングを実施しているほとんどの湖沼で、酸性化からの回復の兆候が見られました。



※：当該年平均値が有効判定基準に適合せず、棄却された。  
注：平均値は降水量加重平均により求めた。  
資料：環境省

### (4) 人口

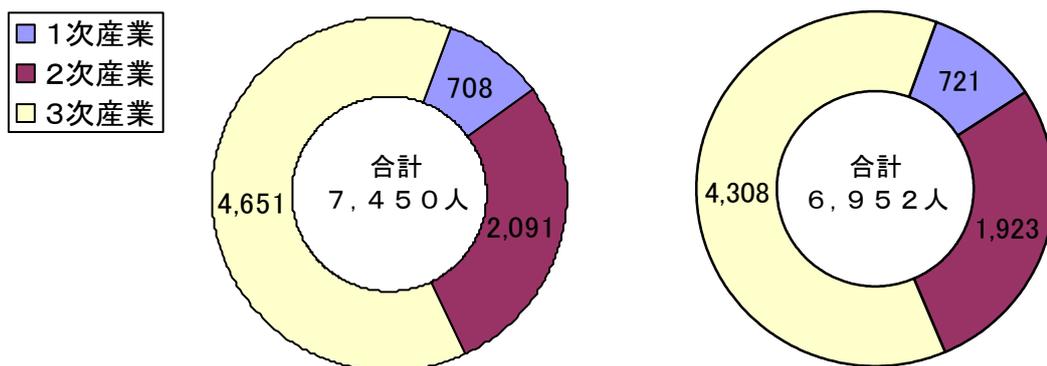
白老町の人口は年々減少傾向にあり、平成21年度以降は2万人を割っており、人口減少への対策がとても重要な課題です。



白老町住民基本台帳（届出）

### (5) 産業人口

白老町の産業人口は次のとおりとなっており、1次産業人口は増加していますが、2次・3次産業人口では減少傾向にあります。



	平成22年	平成28年
事業所数	56箇所	45箇所
製造品出荷額	約619億円	約659億円

H22、H27 国勢調査、H22 工業統計調査、H28 経済センサス

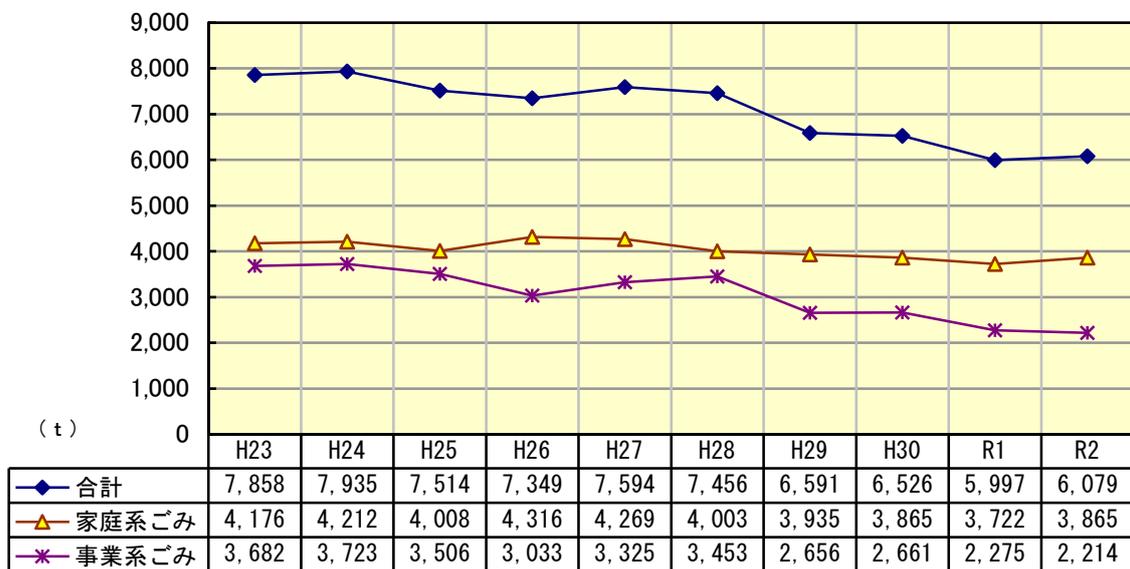
## 2 廃棄物処理の現状

### (1) 一般廃棄物

白老町の一般廃棄物処理の排出量は、全体では減少傾向にありますが、家庭系ごみはほぼ横這いの状況で推移しています。

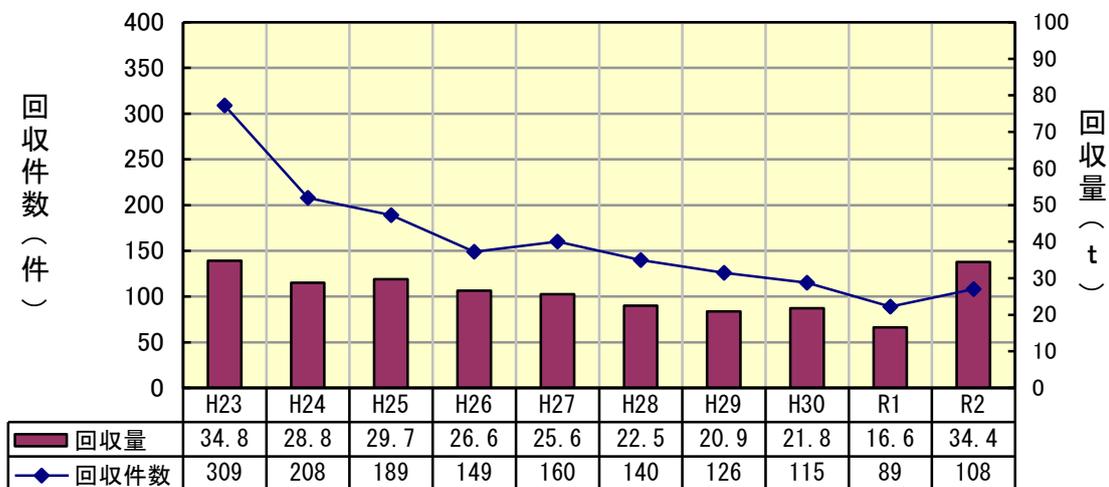
また、不法投棄のごみなどの回収量は、近年やや減少傾向にありますが、継続して、パトロールによる監視などの対策が必要です。

#### ・一般廃棄物排出量の推移



環境省 一般廃棄物処理実態調査

#### ・不法投棄処理実績の推移



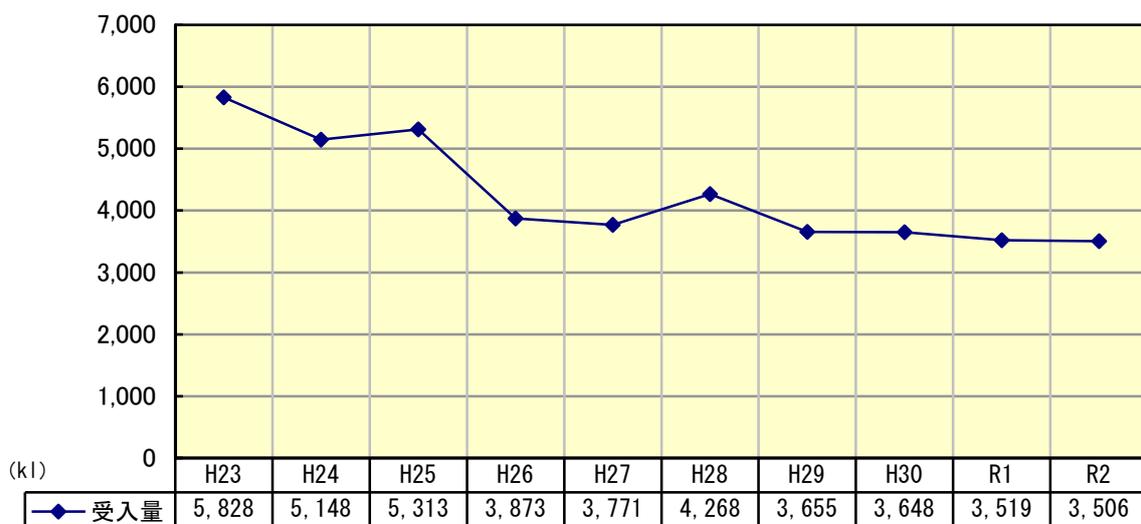
白老町 生活環境課

### (1) 一般廃棄物（し尿）

白老町のし尿処理施設での受入量は、近年の下水道整備の拡張により減少傾向にあり、脱水汚泥は、肥料化として有効利用されています。

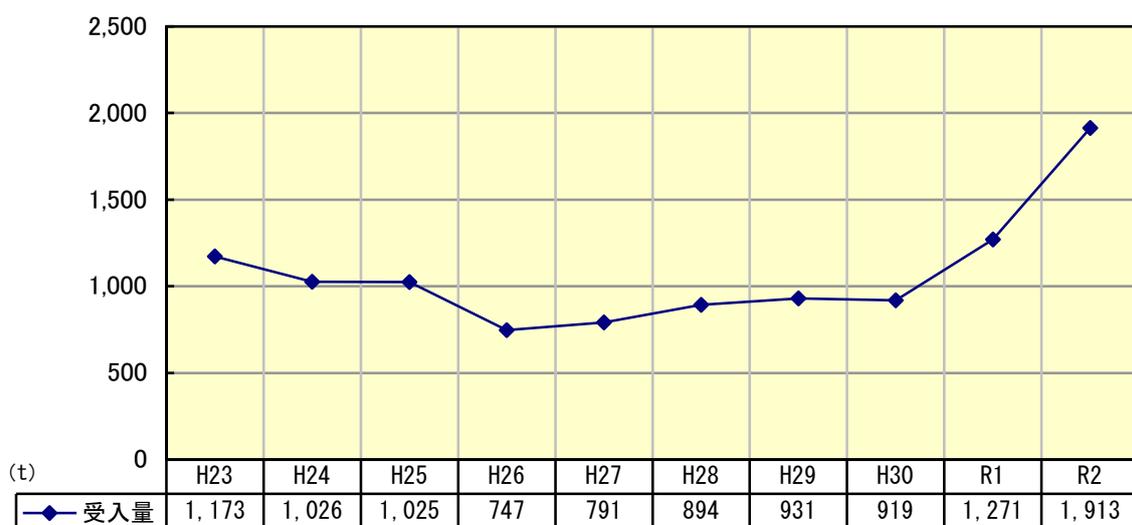
また、し尿処理施設は築後40年以上が経過し、老朽化が著しかったため令和2年度からMICS事業（污水处理施設共同整備事業）にて処理をしています。

#### ・し尿受入量の推移（浄化槽汚泥除く）



環境省 一般廃棄物処理実態調査

#### ・脱水汚泥発生量の推移



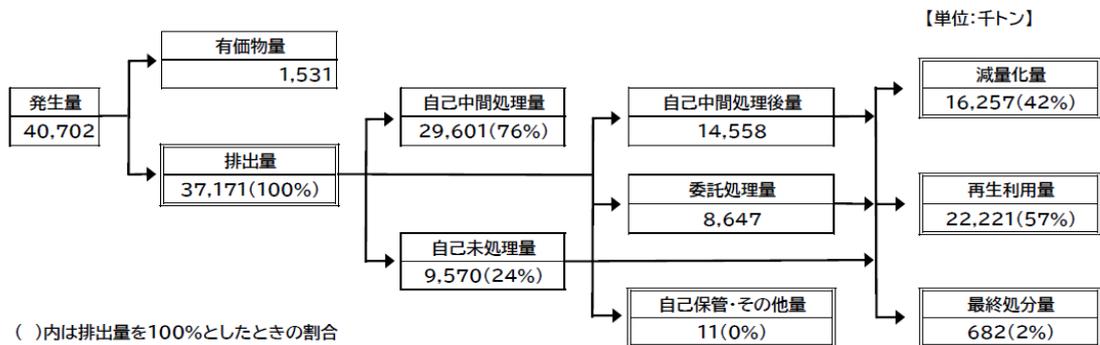
白老町 上下水道課

## (2) 産業廃棄物

白老町内の廃棄物の総排出量・内訳は把握できませんが、北海道がとりまとめた道内の産業廃棄物処理量の実態ではわずかな増加傾向にあります。しかし、再生利用量の増加も見られていることから、廃棄物の再生利用（リサイクル）の増進が図られているともいえます。

### ・北海道産業廃棄物処理状況調査結果概要（平成30年度実績より）

平成30年度における道内の産業廃棄物の発生量及び処理状況は、全体で40,702千トン発生し、発生量から有価物量1,531千トンを除いた39,171千トンが排出されています。この内、中間処理を経て16,257千トンが減量化、22,221千トンが再生利用、682千トンが最終処分、11千トンが自己保管等されています。



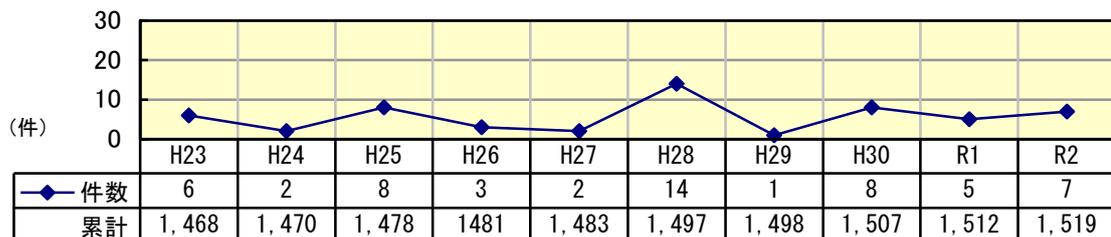
平成24年度実績と比較すると、排出量は1,950千トン、再生利用量は540千トン増加し、最終処分量は39千トン減少しています。

区分	排出量	再生利用量	最終処分量
平成24年度	38,752	21,681	721
平成30年度	40,702	22,221	682

北海道 産業廃棄物処理状況調査

## (3) リサイクル（白老町コンポスト助成）

平成4年度から、コンポスト等の購入費の助成を実施し減量化に大きな役割を果たしています。助成個数は令和3年3月末現在で1,519個になっています。



白老町 生活環境課

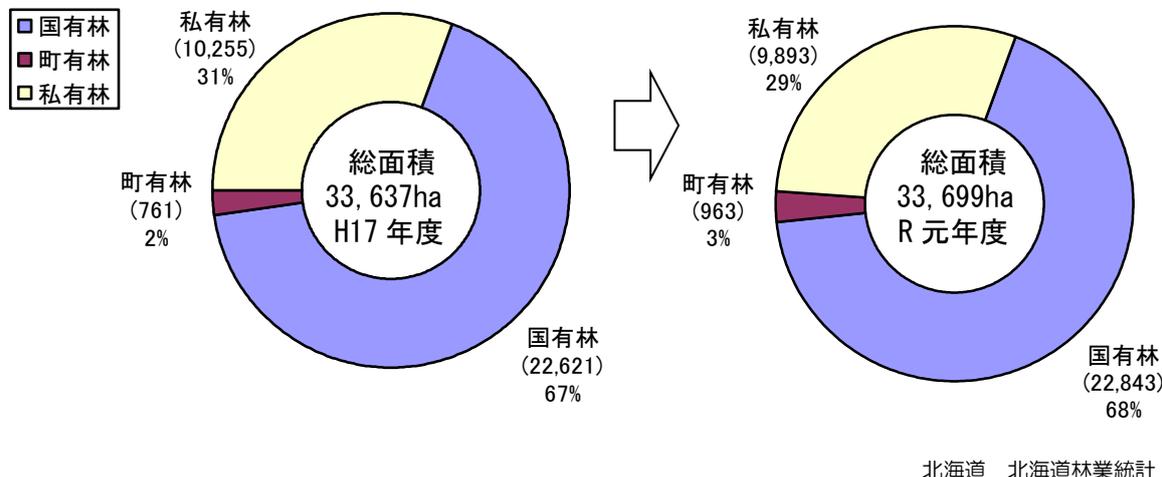
### 3 自然環境の現状

#### (1) 森林

白老町の森林面積は33,699haと総面積(42,564ha)の約79%を占めており、森林のみどりに恵まれた環境にあります。

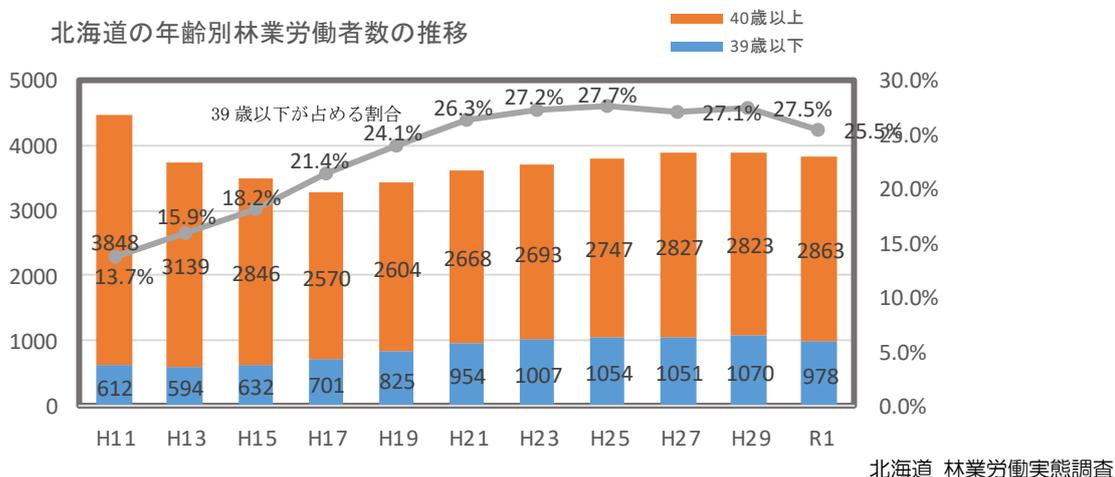
森林面積の内訳を見ると、国有林が22,843ha(68%)、町有林が963ha(3%)、私有林が9,893ha(29%)となっています。町有林と私有林を合わせた10,856haのうち、カラマツ・トドマツを主体とした人工林の面積は、2,846haであり、人工林率約26%と全道平均(約37%)より低くなっています。

白老町では、「白老町森林整備計画書」に基づいて、町有林・私有林の森林整備を推進していますが、国有林が森林面積の68%を占めていることから、国と連携協力した森林の保全に努めなければなりません。



#### ・ 林業従事者

林業従事者は、全国的に減少傾向にあります。北海道においては若手の人材が増加傾向でありましたが、近年は減少傾向となっています。今後も、まちの緑の骨格を成す森林の保全を担う人材の確保に向けた取り組みが大切です。

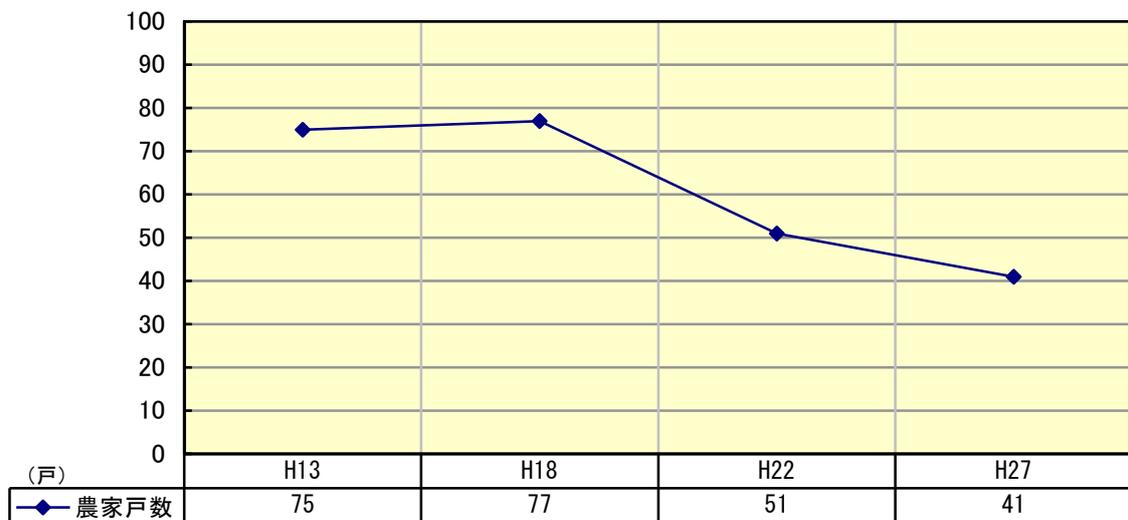


## (2) 農地

農地は、保水性に優れ防災機能を有するほか、景観形成機能や環境保全機能を持つことから、自然環境の面からも農地の保全に努める必要があります。

また、近年の農家戸数・耕地面積はいずれも減少傾向にあり、特に農家総戸数は、平成17年に77戸でしたが、平成27年には41戸と、ここ10年間で半減しており、農業経営者の確保や農地の維持管理が課題になっています。

## ・ 農家総戸数の推移



農林水産省 農林業センサス

## ・ 耕作面積の推移



農林水産省 農林業センサス

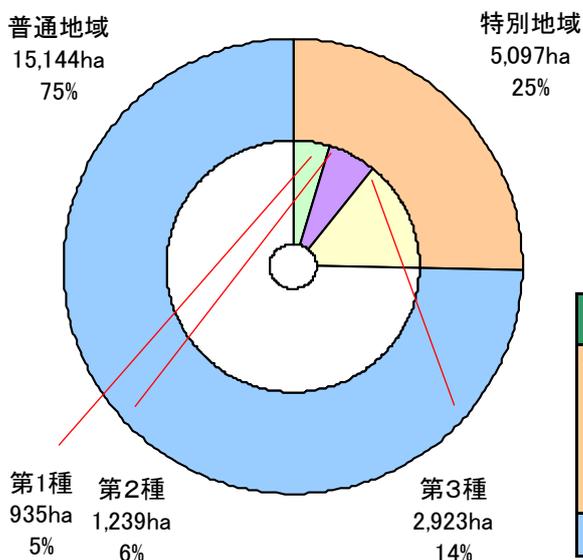
(3) 自然公園地域

白老町の北部山岳地帯は、自然公園法に基づく支笏洞爺国立公園に指定され、優れた自然の風景地を保護と、その利用の増進が図られています。

・支笏洞爺国立公園



※ 白老町内に特別保護地区はありません



自然公園面積		20,241	100%
特別地域		5,097	25%
第1種特別地域	935	5%	
第2種特別地域	1,239	6%	
第3種特別地域	2,923	14%	
普通地域		15,144	75%

環境省 自然公園資料

## ・ 自然環境保全地域

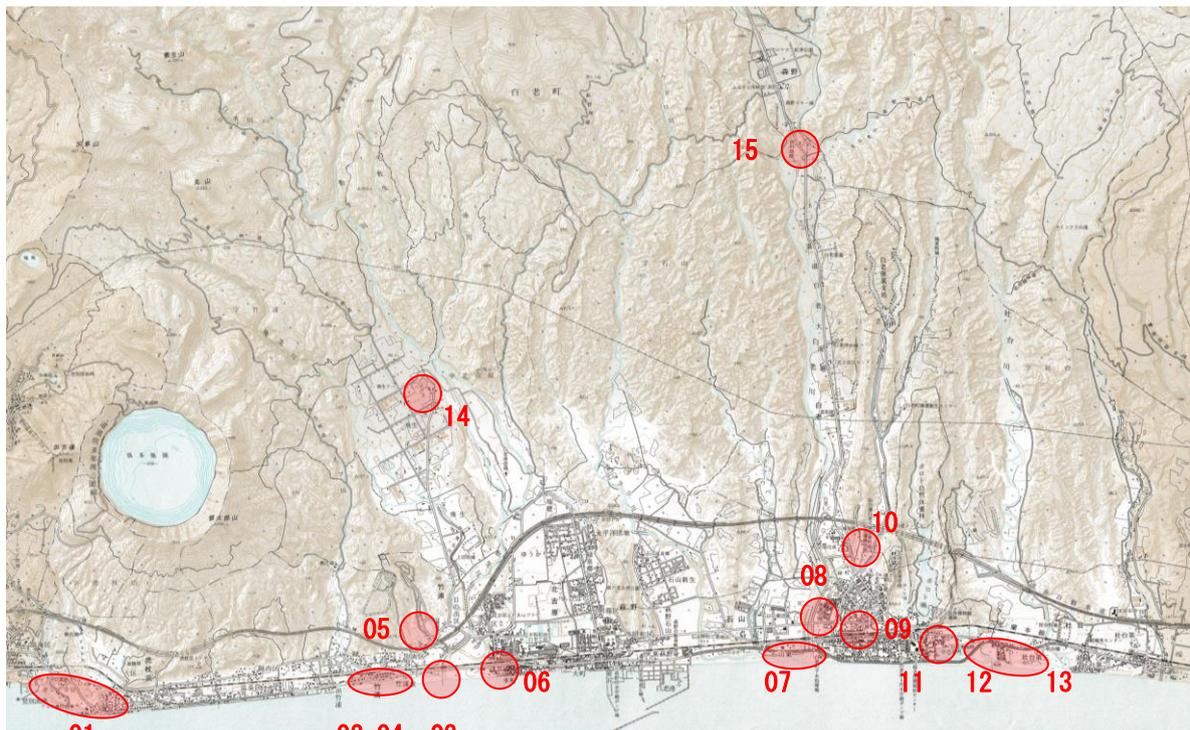
白老町内には北海道が策定した「北海道自然環境保全指針（平成元年）」の中で、「身近な自然地域」として町内15箇所が指定されています。

この身近な自然地域は、市街地周辺に残された貴重な自然が残っている場所であり、保全を図ることが必要です。

また、白老八幡神社境内の「誉の水松（イチイの木）」は銘木として選ばれており、北海道自然環境等保全条例に基づき、昭和47年3月1日に記念保護樹木の指定を受けています。

### 白老町に指定されている「身近な保全地域」

01 アヨロ・ポンアヨロ海岸	06 旧大昭和公園	11 日の出雑木林
02 メップ川流域	07 白老川河川敷	12 ヨコスト湿原
03 敷生川河川敷	08 旧白老墓地跡	13 社台の砂浜
04 竹浦の砂浜	09 八幡神社境内	14 飛生アートコミュニティー
05 手塚の沼	10 仙台藩陣屋跡	15 御料地橋川原



北海道 自然環境保全指針



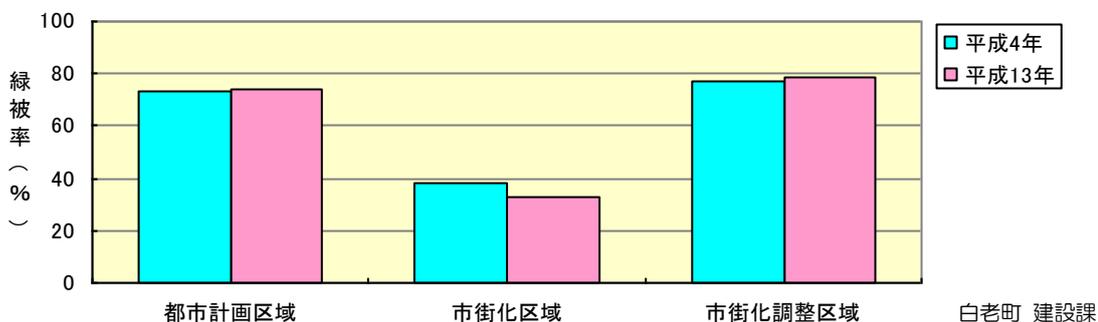
#### (4) まちの中のみどり

白老町のまちの中には、公園・花壇・街路樹・その他の緑地など、様々なみどりがあります。

#### ・緑化の状況

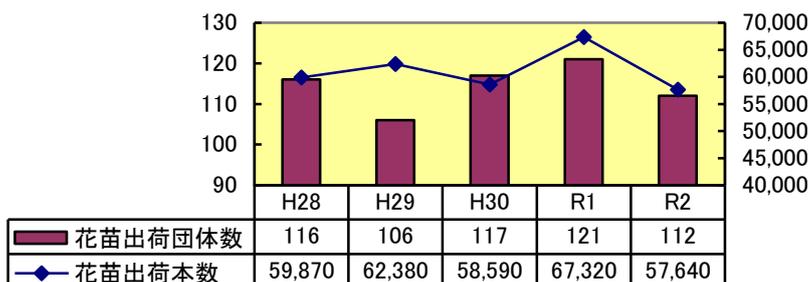
平成4年からの緑被率を比較すると、都市計画区域全体では、0.8%増となっており、これまでの変化はそれほど見られません。しかし、市街化区域では、4.8%も減少しており、市街地のみどりが年々減少していることがわかります。

区 域	区 別	平成4年	平成13年
都市計画区域	区域面積	10,283.0ha	10,283.0ha
	緑被面積	7,542.3ha	7,619.5ha
	緑被率	73.3%	74.1%
市街化区域	区域面積	980.0ha	1,062.0ha
	緑被面積	370.6ha	349.5ha
	緑被率	37.8%	33.0%
市街化調整区域	区域面積	9,303.0ha	9,221.0ha
	緑被面積	7,171.7ha	7,274.9ha
	緑被率	77.1%	78.9%



#### ・花壇の整備

白老町では「花とみどりの会」を中心に、まちを花で飾る活動が進められ、町内会・学校・各種団体・企業など団体により、植樹祭、花壇整備、花壇コンクール、ガーデニングコンテスト等が行われていますが、近年は維持管理の担い手の高齢化に伴う減少が問題となっています。



## (5) 公園

白老町の一人あたり都市公園面積は、令和元年度末現在 126.17 m<sup>2</sup>/人となっており、令和元年度の全国 10.7 m<sup>2</sup>/人、全道 39.9 m<sup>2</sup>/人を大幅に上回っています。

面積 (ha)、樹木数 (本)

公園名	種別	利用面積	植栽面積	樹木数	主な樹種(高木)
大町中央公園	街区	0.13	0.05	51	エゾヤマザクラ
北吉原公園	〃	0.14	0.09	31	ナナカマド
末広公園	〃	0.17	0.06	73	エゾヤマザクラ
萩野大町公園	〃	0.14	0.13	47	ナナカマド
浜町公園	〃	0.16	0.15	7	ヤチダモ
緑ヶ丘公園	〃	0.15	0.07	30	エゾヤマザクラ
東町1号公園	〃	0.10	0.08	100	ナナカマド
萩野前浜公園	〃	0.15	0.13	0	高木無し
アヨロ公園	〃	0.16	0.14	14	ヤマモミジ
竹浦1号公園	〃	0.25	0.21	18	ナナカマド
美園公園	〃	0.23	0.08	24	ナナカマド
石山温泉郷1号公園	〃	0.85	0.74	330	ストローブマツ
萩野緑泉郷公園	〃	0.24	0.19	214	エゾヤマザクラ
あけぼの公園	〃	0.19	0.06	91	エゾヤマザクラ
北吉原緑泉郷公園	〃	0.20	0.16	177	エゾヤマザクラ
北吉原緑町1号公園	〃	0.21	0.10	71	アカシヤ
北吉原緑町2号公園	〃	0.28	0.07	198	シラカンバ
青葉台公園	〃	0.17	0.13	142	エゾヤマザクラ
栄町公園	〃	0.33	0.16	77	エゾヤマザクラ
東町2号公園	〃	0.20	0.10	194	イチョウ
岩倉団地1号公園	〃	0.57	0.23	341	高木無し
岩倉団地2号公園	〃	0.50	0.18	471	ハルニレ
本町公園	〃	0.32	0.15	110	ヤチダモ
緑丘どんぐり公園	〃	0.38	0.25	4	ミズナラ
萩の里自然公園	緑地	160.20	78.91	212,790	クリ
本町運動公園	近隣	1.64	0.00	0	高木無し
白老桜ヶ丘公園	運動	31.50	2.44	1,638	エゾヤマザクラ
白老霊園	墓園	7.60	1.59	2,860	ナナカマド
チュップカの広場	緑地	0.06	0.05	18	ブンゲンストウヒ
萩野ハマナス広場	緑地	0.59	0.49	4,526	高木なし
計	30カ所	207.81	87.19	224,647	

白老町 建設課

(6) 生物多様性

白老町内には、北海道レッドデータブックの絶滅危惧種に登載されている、「オジロワシ、オオワシ、クマタカ」など、植物では「メハジキ、サルメンエビネ、クマガイソウ」などが複数確認されており、昆虫においても「オオアオイトトンボ、マダラヤンマ、ナツアカネ」などの希少種に登載されている、珍しいトンボも確認されております。

北海道レッドデータブックに登載されている町内で確認された種類（一部抜粋）

和名又は学名	RDBランク	主な生息環境	和名又は学名	RDBランク	主な生息環境
 <b>鳥 類</b>			 <b>植 物</b>		
オジロワシ	絶滅危惧種	河川	コイチヨウラン	絶滅危惧種	森林
オオワシ	〃	河川	メハジキ	〃	草原
クマタカ	〃	森林	ヤナギタウコギ	〃	湿地
オオタカ	絶滅危急種	森林	サルメンエビネ	〃	森林
カンムリカイツブリ	〃	海域	クマガイソウ	〃	森林
クマゲラ	〃	森林	エゾノミスタデ	絶滅危急種	河川
ミコアイサ	〃	河川	クリンソウ	〃	湿地
ハヤブサ	〃	海域	シラネアオイ	〃	農耕地
チュウヒ	〃	草原	ヒメタヌキモ	〃	河川
アカショウビン	希少種	河川	ヒメミスズナ	〃	河川
ホウロクシギ	〃	河川	フサスギナ	〃	河川
エゾライチョウ	〃	森林	アリドオシラン	希少種	森林
オオジシギ	〃	湿地	イワオウギ	〃	岩場
ケアシノスリ	〃	草原	イワハリガネワラビ	〃	森林
トモエガモ	〃	河川	エゾエノキ	〃	森林
ヒシクイ	〃	河川	キセワタ	〃	草原
ヨタカ	〃	森林	キンロバイ	〃	岩場
チュウサギ	〃	河畔	コイワカガミ	〃	岩場
エゾライチョウ	〃	森林	コケスギラン	〃	草原
ウズラ	〃	草原	コタヌキラン	〃	岩場
 <b>両生類・爬虫類</b>			ゴキツル	希少種	湿地
エゾサンショウウオ	留意種	森林	タチモ	〃	湿地
 <b>魚 類</b>			タヌキモ	〃	湿地
ハナカジカ	留意種	河川	ノウルシ	〃	河畔
 <b>昆 虫 類</b>			ハマハナヤスリ	〃	砂地
オオアオイトトンボ	希少種		ヒメホタルイ	〃	湿地
マダラヤンマ	希少種		ホソバナソモソモ	〃	草原
ナツアカネ	希少種		ホトトギス	〃	森林
セスジイトトンボ	希少種		マツモ	〃	河川
マイコアカネ	希少種		ミクリ	〃	河川
オオコオイムシ	希少種		ミヤマウラボシ	〃	岩場
			ミヤマフタバラン	〃	森林
			ムシトリスミレ	〃	岩場
			メヤブマオ	〃	森林
			ヤナギヌカボ	〃	湿地
			ヤマネコノメソウ	〃	森林
			ヤマホトトギス	〃	森林

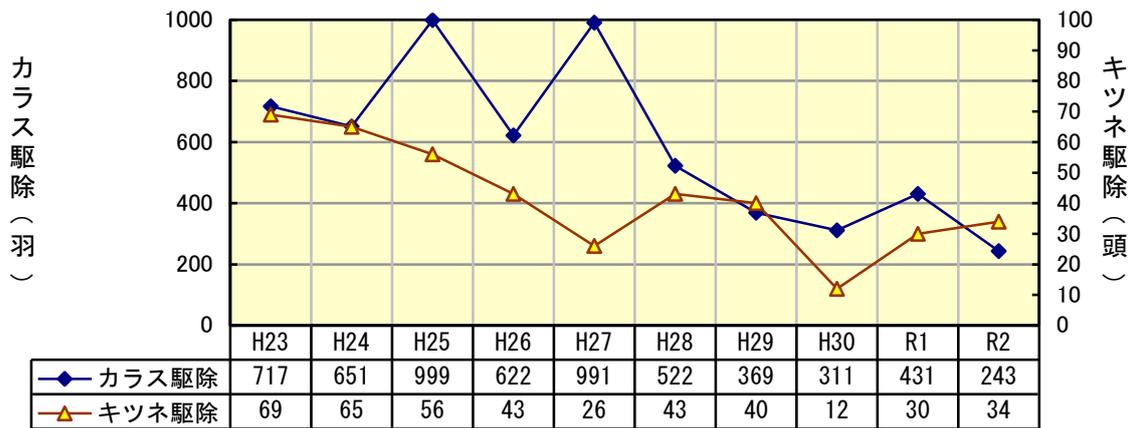
絶滅危惧種：絶滅の危機に瀕している種または亜種  
希 少 種：存続基盤が脆弱な種または亜種

絶滅危急種：絶滅の危機が増大している種または亜種  
留 意 種：保護に留意すべき種または亜種

(7) 有害鳥獣・特定外来生物

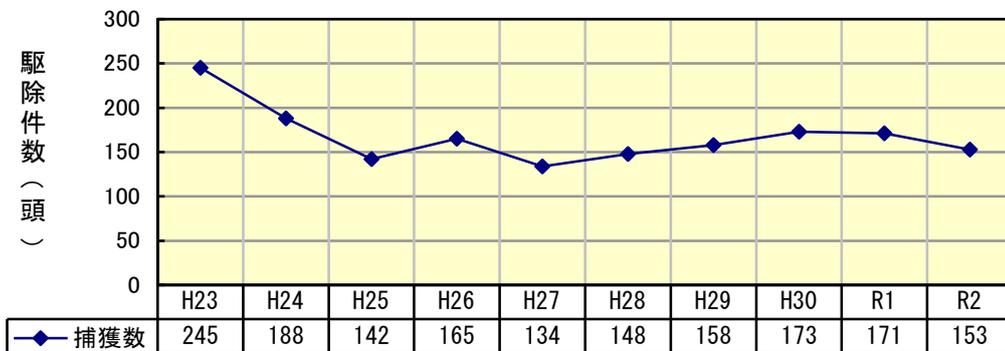
白老町では、農業、林業への被害防止や公衆衛生の確保を目的に、有害鳥獣・有害昆虫（スズメバチ等）の駆除を行っています。

・有害鳥獣（カラス・キツネ）駆除の推移



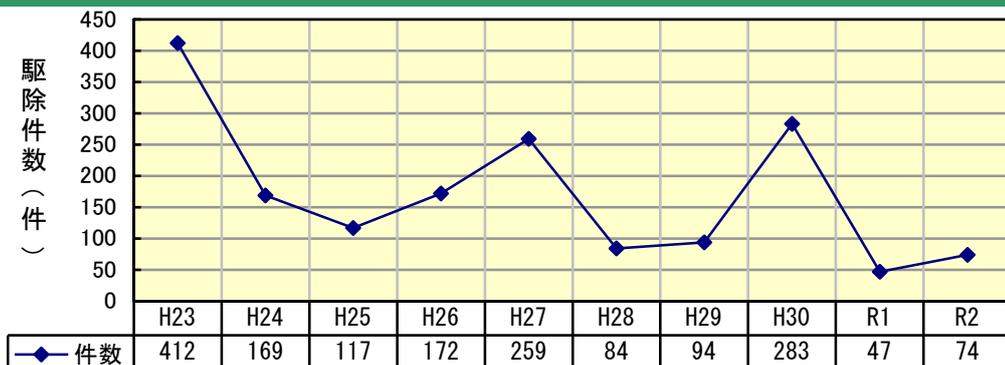
白老町 生活環境課 鳥獣関係統計

・特定外来種（アライグマ）駆除の推移



白老町 生活環境課 アライグマ捕獲状況調査

・スズメバチ処理実績の推移



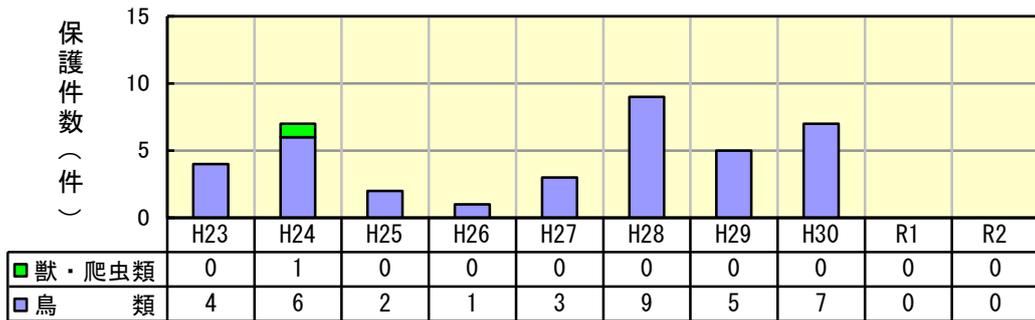
白老町 生活環境課

(8) 鳥獣保護

白老町内では、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づき、森林鳥獣の生息地とする鳥獣保護区を北海道が指定しております。

また、傷病鳥獣などの保護についても、鳥獣保護員との連携を図り実施しています。

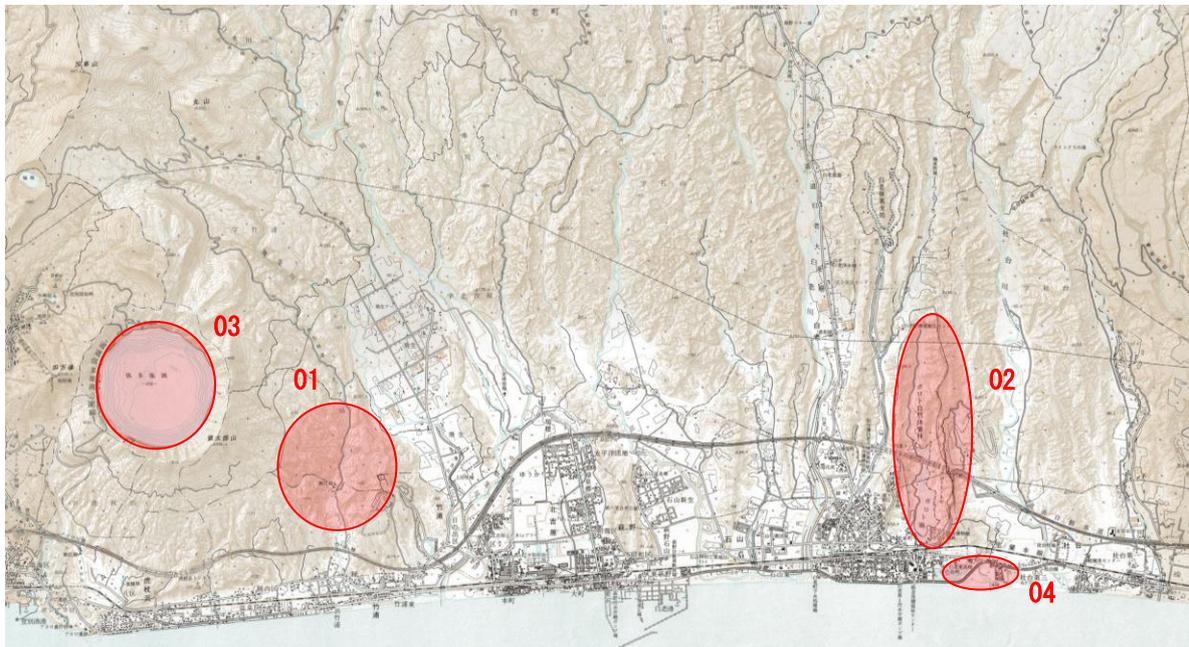
・ 鳥獣保護の推移



白老町 生活環境課

・ 白老町内の鳥獣保護区及び銃猟禁止区域など

01 白老王子鳥獣保護区	540 ha	03 倶多楽湖鳥獣保護区	799 ha
02 ポロト鳥獣保護区	397 ha	04 ヨコスト湿原特定猟具使用禁止区域	44 ha



白老町 生活環境課

(9) アイヌ文化の伝承活動

アイヌ文化の伝承活動に必要な動植物に関する調査（H15：財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構）、アイヌの有用植物分布調査（H19：白老町）では18種の動物と96種の植物について調査が行われ、今後はこうした動植物の保全・保護が必要とされています。

樹木（47種）

アオダモ	イタヤカエデ	イチイ	イヌエンジュ	ウダイカンバ
エゾニワトコ	エゾノウワミズザクラ	エゾノコリンゴ	エゾマツ	エゾヤマザクラ
エゾヤマハギ	オニグルミ	オノエヤナギ	オヒョウ	カシワ
カツラ	ガンコウラン	キタコブシ	キハダ	クリ
クロイチゴ	クロミノウグイスカツラ	ケヤマハンノキ	サルナシ	シナノキ
シラカンバ	ダケカンバ	タラノキ	ツリバナ	ツルウメモドキ
トドマツ	ナナカマド	ノリウツギ	ハシドイ	バッコヤナギ
ハマナス	ハリギリ	ハルニレ	ハンノキ	ホオノキ
マタタビ	マユミ	ミズキ	ミズナラ	ヤチダモ
ヤマグワ	ヤマブドウ			

アイヌの有用植物分布調査

草木（49種）

アキタブキ	アマニュー	イ（イグサ）	イケマ	ウド
エゾイラクサ	エゾエンゴサク	エソトリカブト	エゾニュー	エゾノリュウキンカ
エンレイソウ類	オオアマドコロ	オオイタドリ	オオウバユリ	オオカサスゲ
オオバコ	オオハナウド	オニヤガラ	ガガイモ	カタクリ
ガマ	ギョウジャニンニク	クサノオウ	クロユリ	ゲンノショウコ
コウライテンナンショウ	シロヨモギ	ススキ	チシマザサ	ツリガネニンジン
ツルニンジン	テンキグサ	ナギナタコウジュ	ニリンソウ	ノダイオウ
ノブキ	バアソブ	ハコベ類	ハンゴンソウ	ヒシ
ヒメザゼンソウ	フッキソウ	フトイ	ムカゴイラクサ	ヤブマメ
ユキザサ	ヨシ	ヨブスマソウ	ヨモギ類	

アイヌの有用植物分布調査

動物（18種）

アメマス	イトウ	エゾクロテン	エゾシカ	エゾタヌキ
エゾヒグマ	エゾユキウサギ	オショロコマ	カラフトマス	キタキツネ
ギンザケ	サクラマス	サケ	シマフクロウ	ヒメマス
マガモ	マスノスケ	ミヤバイワナ		

アイヌ文化の伝承活動に必要な動植物に関する調査

## 4 都市環境の現状

### (1) 上下水道の整備

白老町の上水道は、昭和42年に事業が開始され、これまで3度の拡張事業を実施し、山間部に位置する森野・飛生地区を除くほぼ全域が給水可能な状況で、白老川の源流の一つである毛白老川の表流水と倶多楽湖水系の湧水及び地下水を水源とし、各浄水場（3カ所）で浄水処理され供給しています。

また、白老町の下水道は、最も早い昭和49年4月に下水道終末処理場が供用開始し令和3年3月末現在で、管渠の総延長は180km、認可区域内の整備率は79.1%、人口普及率で90.7%になっており、水洗化率は、94.6%となっています。

### ・水道施設

#### 上水道普及状況

	給水区域内人口	給水人口・世帯	普及率	給水普及率	導配水管延長
H23	19,038 人	18,893 人	98.7	99.2	276,467
H24	18,754 人	18,627 人	98.7	99.3	279,026
H25	18,425 人	18,292 人	98.7	99.3	274,696
H26	18,078 人	17,939 人	98.6	99.2	272,156
H27	17,693 人	17,566 人	98.6	99.3	271,864
H28	17,372 人	17,250 人	98.6	99.3	268,255
H29	16,952 人	16,840 人	98.5	99.3	267,290
H30	16,647 人	16,543 人	98.5	99.3	307,464
R1	16,333 人	16,228 人	98.5	99.4	307,498
R2	16,089 人	15,978 人	98.4	99.3	306,791

#### 水道施設の概要

浄水場名	原水の種別	水源地	実績年間給水量 (R2)	現有施設公称能力	給水範囲
白老浄水場	表流水	白老川水系 毛白老川	1,343 千m <sup>3</sup> /年	5,750 m <sup>3</sup> /日	白老、社台、 石山
虎杖浜 第1浄水場	湧水	アヨロ川水系 樺の沢	480 千m <sup>3</sup> /年	1,500 m <sup>3</sup> /日	竹浦、虎杖浜
虎杖浜 第2浄水場	地下水	深井戸 (2カ所)	365 千m <sup>3</sup> /年	3,050 m <sup>3</sup> /日	萩野、北吉原

白老町 上下水道課

## ・ 下水道施設

## 下水道普及状況

	認可区域 (ha)	整備済区域 (ha)	整備率 (%)	水洗化人口 (人)	整備区域 内人口 (人)	水洗化率 (%)
H23	1,062.40	778.53	73.28	17,334	18,381	94.30
H24	1,062.40	779.09	73.32	16,874	17,952	94.00
H25	1,064.40	779.18	73.20	15,552	17,039	91.27
H26	1,064.40	779.18	73.20	15,335	16,692	91.87
H27	1,064.40	779.18	73.20	14,996	16,257	92.24
H28	1,064.40	779.18	73.20	14,824	15,986	92.73
H29	1,064.40	779.18	73.20	14,692	15,635	93.97
H30	1,064.40	779.18	73.20	14,379	15,300	93.98
R1	1,064.40	779.18	73.20	14,111	14,998	94.09
R2	1,064.40	842.38	79.14	13,935	14,735	94.57

白老町 上下水道課